

鶴が丘だより

年のはじめに 〜人生100年代に向けて 院長 後藤 晶子

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。今年の東京は雲ひとつない快晴で、元旦の早朝から思わず散歩に出ました。皆様清々しい新年をお迎えのことと存じます。

日頃は病院の運営にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

◎「人生100年代」

昨年の流行語のひとつに選ばれた印象深い言葉です。2016年に100歳以上の高齢者は6万6542人で、安倍政権は9月に「人生100年

時代構想推進室」の看板を掲げました。

確かに毎日の診療の中で、患者様の年令が目に見え、上昇していると実感します。特に外来に来られるシニアの方はどなたもお元気で、一見全く歳をとらないようにさえ見えます。

皆様共通しているのが、良く笑うこと、歯と足が丈夫であることです。

また昨年、元聖路加国際病院院長の日野原重明先生が105歳で他界されました。「生活習慣病」の提唱など、国民の健康増進に大きく影響を及ぼした先生が最期に選ばれたのは、延命処置をしない、無効な点滴はしない決断でした。

生き生きと自分の寿命を全うすること、つまり日々いかにより気持ち良く生きたいかということ。精神医学の役割が、改めて重

要があると感じます。

◎次世代に求められる医療の形とは

昨年11月より、片桐健志先生をお迎えし、医師による心理療法の「対人関係療法」を開設いたしました。

これは認知行動療法のひとつで、対人関係に軸をおいたカウンセリングです。

この他樋口輝彦先生による「うつ病専門」外来も好評を頂き、セラピスト・ニオンの受け入れもして下さっています。

詳しくは相談室がご案内します。是非ご利用下さい。

また昨年末最後の職員研修は遠隔診療についてでした。平成28年度よりテレビ電話を介した診療が一部解禁され今年度さらに拡大される見通しです。

職場復帰後の患者さんの

ある日の鶴が丘

新年のつどいも行いました。

1月5日の仕事初めに合わせて、新年のつどいを行いました。



短い時間ではありましたが、参加スタッフ同士で今年の抱負を語ったり、交流の機会となりました。

気持ちも新たに……本年も何卒宜しくお願い申し上げます。



フアローや引キコモリの状態の方の病態把握等、精神科でも有効な手段であると考えています。

◎「親なきあと」の検討

昨年度地区家族会で「親なきあと」のケース検討を行ったところ、多くの反響をいただきました。ここで上午く子供を自立に導くことができたのは、一時的にでも親から離れたケースに多い事が分かりました。

親だけでなく、色々な人にも上手に少しずつ頼れること、自立への一歩と考えます。但し、家族だけでなく対応が難しいケースもあります。心配なご家族様は、どうかスタッフへ一度ご相談下さい。

◎少子高齢化に向けた働き方改革

当院は今年設立47年、

新棟改築後10年、長津田二の森診療所開設5年目を迎えます。

昨年度より強化しているのが、職場環境の見直しと働きやすさの向上についてです。職員から職場の問題点と解決策にフィードバックを募り、業務改善、連携強化、休憩時間の効率化を軸に取り組んでいます。

現時点では気持ちの良い職場作りと健康増進を兼ねた同好会企画の設立、休職者のリターン企画、マニュアルの再整備等が進行しています。また70歳定年を目指し、整備を進めています。

社会的に見ても昨年度は宅配業界で配送時間帯の制限や価格の見直しがおきました。人口減少と共に良質な人材の確保が大きな課題となります。利便性を追求した時代から

バランスのとれた働き方が長く元気に働く方向、まず自分の立場から改善していきたいと考えています。



◎最後に「病院理念」

「敬天慈人」が基本理念です

私たち、鶴が丘ガーデンホスピタル職員は

・こころ病める人と共に歩み、安心と安らぎのネットワークを作ります。

私たちは

・人の心身を癒す天職に、誇りと畏れをもって勤めます。

・患者様の人権を尊び、怒りかして新しい良質な精神医療看護、福祉を提供します。

・ご家族、地域社会とスクラムを組んで、患者様が再び社会の中で自分らしく生きがいを持って暮らせるお手伝いをします。

・この実践により、私達自身も自己実現をはかります。

今月の...

いろはカルタ

お正月拡大版...

① つづ走るより ついて行け

② 眠ろうとしない方が よく眠れる

③ 仲間とれば 楽しさ百倍

④ 楽な道ほど 足元注意

医療法人社団 鶴永会

鶴が丘ガーデンホスピタル
TEL: 044-988-3121
東京都町田市三輪山 2-2133-1
長津田いこいの森診療所
TEL: 045-507-7656
神奈川県横浜市緑区長津田 4-11-14